

【乳・幼児期へのアプローチ】

今後の乳幼児歯科健診のあり方と 歯科医師会の地域協働を考える

～ 1億総活躍社会の実現と健康寿命の延長に向けて～

大阪府池田市歯科医師会では、乳幼児からの口腔機能の発達支援に
取り組み、多職種協働における研修会を重ねることで共通理解や多
職種のそれぞれの現場での取り組みが始まっています。またそれら
を通じて池田市の乳幼児健診事業および歯科医師会乳幼児歯科健診項
目として食べ方に関する項目が追加されました。

小石 剛 WEB >>

医療法人優心会こいし歯科 理事長

赤井 綾美

地域歯科保健分野 認定歯科衛生士

① はじめに・背景

近年の乳歯う蝕有病者率、一人平均歯数の減少や、
地域のかかりつけ歯科での予防管理や保健指導の充足
は進んでいますが、その一方、生活全般の支援や保護者
への支援も必要と思われるう蝕のハイリスク児への予防
管理によるアプローチは難しくその支援が課題となっ
ています。池田市児童・保育課による保育士へのアンケ
ート調査では、うまく食べられない、舌でつぶす、丸飲み、
喉に詰まる、よだれがいつまでも出る、言葉が不明瞭な
子が増えている、口が開いたまま等の離乳食や食べ方
に関する困り事が挙げられ、新たな取り組みの必要性が
高まっていました。

東京都新宿区では保護者の食事に関する不安に対
する先駆的な取り組みとして、平成20年度より「歯から
始める子育て支援事業」として、1歳児および2歳児を
対象に食べ方も含めた歯科相談事業を行っており、健
診時のアンケートで約60%の保護者が「食べ方で気
になる点がある」と答えています¹⁾。新宿区ではさら
に摂食機能の発達支援を専門とする大学歯学部との
連携による専門的支援として、乳幼児の食事のとり
方や口の機能に不安や疑問を感じている保護者を
対象とした「食べ方相談」事業を展開しています。

「食べ方相談」での主訴としては、丸のみ、時間
がかかる、ためこみ、好き嫌い等の問題が挙げられ、
生じやすい問題点は月齢や歯の萌出状況に応じて
変化していくことから、個別的な対応の必要性が
ある一方、食事が楽しいといった子どもの食事
に対する姿勢が親の心理と相互に関わっている
ことから、食べ方に関する相談内容は背景も多岐
にわたり、必要に応じて関連多職種と連携を

とりながらフォローアップしていくことが大切である
ことが示唆されています²⁾。また、口腔機能は乳幼
児期にその基本行動が獲得され、高齢、終末期
まで人々のQOLを支える大きな要因として、乳
児期からの見守りが重要です。

② 口腔機能発達支援研修会

このような背景に基づき、単に歯科専門職に
向けた啓発的な研修では乳幼児期の生活習慣や
子育てに対する現状が伝わりにくく、課題に
対する認識や解決に向けた取り組みへの限界
があることを踏まえ、池田市では地域の子
どもにも関わる関連組織や職種も交えた新
たなソーシャルサポートの醸成を目的とし
て歯科医師会主催による研修会を開催し
ました。

5回の研修の参加者は延べ約250名であり、
参加職種は、歯科医師、歯科衛生士、保育
士、管理栄養士、栄養士、保健師、言語
聴覚士、助産師、歯科助手、小学校・支
援学校教員、医師、子育て支援職など幅
広い役割にご参加いただきました。研修
では、参加者同士の共感や口腔機能の素
晴らしさ、乳幼児期における支援の重
要性について共通理解が得られました。ま
た回を重ねると、継続参加者も徐々に増
え、口の役割や重要性を認識し、現場
での口の状況をよく観察するようにな
り注意を促したり、簡単なお口の体操
や口のマッサージを実施するなど現場
実践につながっていました。

摂食・嚥下や口腔機能について学びたい
という声の他に、「退職後は池田市でつ
ながりたい」と地域での連携活動に期
待を寄せる看護師や「このような取
組みを自分の地域でも広げたい」「池
田市のしくみを学びたい」「お口の
体操など実践するようになった」など、
少しずつ現場



図1 池田市歯科医師会における一連の事業には、赤井綾美先生に立ち上げ時より継続してサポートいただいています。



図2 研修会はワークショップ形式で行い、それぞれの職種の現場での問題点などを共有していきました。



図3 口腔機能について理解を深めるために、実際に飲食をする実習を行いました。



図4 口腔機能に関する講義は講師を招いて行い、共通理解を深めました。



図5 管理栄養士などの事例発表を行うことで、専門的な視点がさらに広がり、課題解決のヒントを多く学ぶ機会となりました。

で定着している様子がうかがえました。

また食べ方がうまくいかない子どもの改善に向けた支援のポイントや予防的な取り組みの提案として、「食べ方」支援だけでなく口腔機能の発達に影響を及ぼす呼吸や姿勢についての学びを深めました。また事例検討を多職種で行ったことにより、それぞれの専門的視点がさらに広がり、課題解決を生活行動の中で捉えるヒントを多く学ぶ機会となりました。

③ 乳児健診問診票に食べ方に関する項目の追加

また、これらの研修事業を通し、池田市の乳幼児健診事業および歯科医師会乳幼児歯科健診項目として食べ方に関する項目が追加されることとなり、対象者のニーズに応じた支援や相談事業の実施に向けた検討に着手できたことは大きな成果となりました。歯科の臨床現場では出会いにくい乳幼児の生活場面でのお口の様々な問題を地域で共有することで、行政の健診のあり方への提言につながりました。

④ 今後の展望

今後は、新たな健診体制の整備と人材育成、地域の各現場で挙げられた問題の相談窓口の設置や課題解決に向けた多職種連携が必要であると考えます。口腔機能は、乳幼児期から高齢、終末期まで人々のQOLを支える大きな要因として、地域で見守り支えることの重要性の

認識から地域包括支援システムの一環として取り組みを展開したいと思います。

●参考文献

- 1) 高橋摩理ら：歯科相談事業における事前アンケートの検討, 小児保健研究 72(6): 883-890, 2013.
- 2) 冨田かをりら：食べ方相談に来所した親子の相談内容の検討, 小児保健研究 72(3): 370-376, 2013.
- 3) 西川岳儀：足指スローストレッチ, 実業之日本社, 164-177, 2015.
- 4) 西川岳儀：健口と整足・足育, 小児歯科臨床 21(1): 6-14, 2016.



プロフィール・こいし ぐろ

池田市歯科医師会公衆衛生担当理事、医療法人優心会こいし歯科理事長。日本小児歯科学会会員、日本口腔衛生学会会員、日本抗加齢医学会専門医。2003年鶴見大学歯学部卒業、2012年岡山大学大学院修了。1978年生まれ、大阪府出身



プロフィール・あかい あゆみ

1995年大阪府立看護大学医療技術短期大学部歯科衛生学科助手を経て2005年よりフリーランス。地域歯科保健分野認定歯科衛生士。日本口腔衛生学会会員、日本小児歯科学会会員、日本健康教育学会評議員。1985年大阪府立公衆衛生専門学校歯科衛生科卒業、2002年佛教大学大学院社会学研究科社会学専攻修了、修士(社会学)。1965年生まれ、大阪府出身